



地元の朝市を見学 江田島市立中町小学校



▲朝市を見学する児童たち

江田島市立中町小学校の2年生は11月17日、生活科「もっとなかよし町たんけん」の学習で、JA女性部中町支部「わくわくグループ」が朝市を行なっているJA中町店を訪れました。自分たちの地域で働いている人々と自分たちの生活との関わりを見つけ、人々の思いに気付き、地域の人々に親しみや愛着を持つことが目的です。児童は、「朝市はいつからしているの?」「朝市をしている目的は?」等と熱心に質問をし、同グループ代表の藤谷敬子さんは「約20年前から新鮮で安心・安全な野菜を地域の方に届けようと朝市を行なっています」と答えました。



糖度17度!!「こだわりいしじ」出荷はじまる

JA倉橋アグリセンターでは12月1日、特選「こだわりいしじ」の出荷が始まりました。一般的な温州みかんよりも糖度の高い石地みかんの中でも、特にこだわった方法で管理・栽培され、糖度が12度以上となる木の果実だけを「こだわりいしじ」として出荷しています。出荷初日に検査したみかんは、糖度17度と基準を大きく上回る甘さとなりました。生産者の落海政博さんは「みかんの中でも糖と酸のバランスの良いおいしいみかんです。食べてもらって、おいしいと喜んでもらうことが一番嬉しい」と話しました。



▲ひとつひとつ丁寧に収穫する落海さん

呉支店等移転のお知らせ

平素はJAひろしまの各事業に対しまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび長年ご利用いただいた農協会館は老朽化等の理由により解体させていただく事となりました。これに伴い、農協会館内の各部署は下記の通り仮店舗(仮事務所)に移転させていただきます。皆様には、大変、ご不便をお掛けしますが、引き続きご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

なお、新たな店舗(事務所)について検討を進めているところですが、正式に決定次第、改めてご案内させていただきます。

1. 移転日 令和8年1月13日(火) 2. 各部署の移転先

部署名	移設場所	住所	電話番号
呉支店 ※1	呉駅西共同ビル3階	〒737-0029 広島県呉市宝町1番10号3階	0823-24-3131
総務管理課	呉駅西共同ビル4階	〒737-0029 広島県呉市宝町1番10号4階	0823-25-1200
信用共済課			0823-24-3146
呉ローンセンター	旧天応支店	〒737-0875 広島県呉市天応大浜2丁目1番65号	0823-24-3132
呉地域営農経済センター 購買課			0823-38-8783
呉地域営農経済センター 営農販売課			0823-38-8783
(株)呉コープ			0823-38-8783

(※1) 呉支店のATMについては当面の間、現在の場所でも自動運行いたします(最長令和8年6月まで)。

(※) 呉グリーンセンターについては令和7年12月30日をもって閉店し、令和8年4月より仮店舗にて営業予定です。





なるほど え~のう! 営農情報

落葉果樹

■共通事項

▽せん定

落葉果樹は、落葉し枝がむきだしになるような状況から開始するのが望ましいです。

葉色が緑色のままでいつまでも葉が残っている場合や、枝の先端部の落葉が極端に遅い状況は、枝の充実が良くないと思われます。

逆に適期よりも極端に早く落葉するのは、多くの場合、根に何らかの障害があるものと考えて、根元や根を検査してみる必要があります。

■イチジク

先月に引き続き、2月までに行ないます。

▽園内の清掃

せん定枝・葉・残果は、病害虫の発生源となりますので、園外に持ち出して処分しましょう。

▽土づくり

完熟たい肥などの有機物を投入し物理性を改善しましょう。ただし、未熟堆肥やバーク堆肥などは土壤病害の発生原因になりますので注意しましょう。

堆肥は様々な商品がありますが、JAでは『こだわり健肥』を推奨しています。

イチジクは中性に近いアルカリ性土壌(pH7.5)を好みます。苦土石灰やカキガラ資材(マリンカル)を10aあたり100kg施用しましょう。

▽排水路の整備

水田跡に植栽している場合など、水はけの悪い園地は、溝切などを行ない、排水対策を行ないましょう。

■カキ

▽せん定

樹が高すぎると、管理作業がしにくいいため、樹高の切り下げを行ないましょう。3~4年かけて、枝を下げながら下部の枝を伸長させ、実がなる位置を下層に移していきます。

カキは昨年生長した枝の先端に花芽がつくので、枝の先端を切つては

いけません。間引き中心のせん定を行ないましょう。

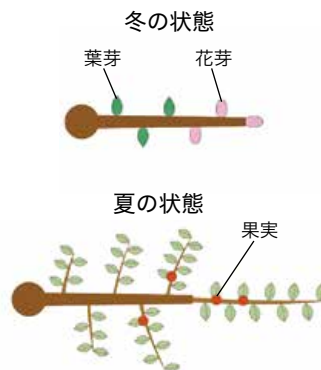


図1 カキの結果習性

■モモ

▽せん定

先端が垂れ下がらないように主枝・亜主枝の先端は強く切り返し、枝を切るだけでなく、枝の誘引や添え木を行ないます。

枝が混んで日陰ができると、枝がはげ上がりやすくなります。樹冠内部まで光が入るようにせん定を行ないましょう。

太い切り口は枯れこみが入りやすくなるので、基部から20cm程度はほぞを残して切りましょう。

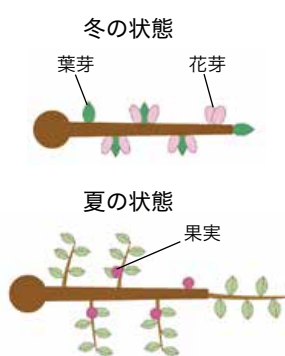


図2 モモの結果習性

■ブドウ

▽せん定

枝の仕立ては長梢仕立てと短梢仕立てのタイプがあります。

長梢せん定では、枝が残りがちでいる場合が多いので枝数を減らすことを最優先に行ないます。

短梢せん定は1芽せん定を基本とし、芽の方向や充実度で基底芽2芽の範囲で調整します。

せん定後、乾燥により必要な芽が傷まないよう、図3を参考に残す芽の先の節で切ります。

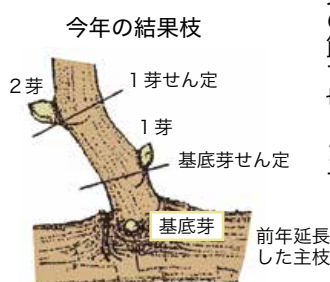


図3 ブドウ短梢せん定の切り方

MEMO

新年あけましたおめでとございます。
果樹は1年で1度しか収穫できない作物です。
特に落葉果樹は、種類ごとで花の着く部位が異なるため、それぞれの結果習性を考慮しながらせん定を行ないましょう。
また、各作業を行なうときは昨年の状況を思い出しながら行ないましょう。

家庭菜園

1月は1年の中でもっとも厳しい寒さに見舞われる時期で、畑もプランターも静まり返り、家庭菜園全体が休んでいるように見えます。「冬は何もできない」と思われがちですが、実はこの時季こそ、春から夏にかけての野菜づくりを成功させるための大切な準備期間です。寒さをうまく利用して土を整え、冬野菜の管理を丁寧に行なっておくことで、春以降の作業がぐっと楽になり、健康で育ちの良い野菜を収穫する土台が築かれます。本稿では、1月に行ないたい土づくりや管理作業、冬でも育てやすい野菜春に向けた計画づくりのポイントなどを詳しく紹介します。

●土づくりは冬が最適

植物の生育を大きく左右するのが「土の状態」です。特に1〜2月にかけては、土づくりにもっとも適した時期といえます。冬の低温によって土の塊が自然に崩れ、細かい粒子になりやすいため、ふかふかした理想的な状態を作りやすいのです。

まずは、前年に育てていた作物の残渣をていねいに取り除き、病気の原因となる根や茎が残らないよう確認しましょう。その後、20〜30cmの深さを目安にしっかり耕します。耕すことで空気を含んだ柔らかい土に

なり、根が深くまで伸びて丈夫な株に育ちます。

堆肥を入れる際には、未熟な有機物ではなく完熟堆肥を選ぶことが大切です。冬は分解が進みにくいため、未熟な素材を使うと春にガス害が出たり、虫を呼び寄せたりすることがあります。完熟堆肥なら保水性・通気性が整い、微生物が活発に働く健康な土に近づきます。

また、苦土石灰を撒く場合は、堆肥を混ぜ込む前に施しておく効果的です。石灰が先に土に馴染み、pHが整うまでに時間がかかるため、冬のうちに調整しておくことで、春の植え付け時にはちょうど良い環境が整います。

●冬の「寒ざらし」で病害虫を減らす

冬の寒さはただ厳しいだけではなく、家庭菜園にとって大きな味方にもなります。強い冷え込みは、土に潜む害虫や病原菌の活動を自然と抑え込み、春先の病害発生を減らしにくれる作用があります。

そこで役立つのが「寒ざらし」。耕した土を細かく砕かず、ゴロ土の状態でしばらく畑に置いておく方法です。大きな土塊が凍結と融解を繰り返すことで内部まで冷気が入り、害虫の越冬数を減らす効果があります。面倒な薬剤散布をせずに環境を整えられる、冬ならではの自然な対策と

いえるでしょう。

プランター菜園でも同様に、使用後の土を天日に広げて乾燥させるだけで殺菌・殺虫効果が期待できます。さらに再生材を加えれば、次のシーズンも十分利用できてコスト削減にもつながります。

●冬野菜の管理ポイント

冬の菜園では、すでに植わっている野菜をどのように守るかが収穫を左右します。寒さは野菜を甘くしてくれる一方、生育を止めたり傷ませたりする要因にもなるため、適切なケアが必要です。

＜ブロッコリー＞

頂花蕾を収穫した後も、側花蕾が次々に生えてきます。小まめに収穫して株の負担を軽くし、風通しをよく保つことで長期間収穫が続きます。霜が強い地域では、外葉を軽く束ねて保護すると傷みにくくなります。

＜ホウレンソウ・小松菜＞

低温で甘みが増す冬の葉物は、寒さが強すぎると生育が止まってしまうたり、葉が傷んだりします。不織布でトンネルを作るだけでも保温・防風効果が高まり、安定して収穫できます。

＜キャベツ・ハクサイ＞

外葉が霜で溶けてしまうと、一気に傷みが進んでしまいます。株元をワラや落ち葉で覆って保温することで、結球がしっかり締まり、美しい形に育ち

ます。凍結や積雪が多い地域では特に有効です。

＜ネギ類＞

乾燥に弱いので、極端な水不足に注意しましょう。土寄せを行なうことで凍結から守られ、白い部分も増えます。冬場の少しのケアで味わいがぐっと良くなる代表的な野菜です。

●春に備えた計画づくり

作業量が減る冬は、ゆつくりと菜園の年間計画を立てる絶好のタイミングです。何を育てたいか、収穫したい時期はいつか、どこに植えるかを考えておくと、春の植え付けが驚くほどスムーズになります。

特に連作障害が出やすいトマト・ナス・キュウリ・キャベツなどは、前年と別の場所に植えることで根の病気を防ぎやすくなります。土の栄養バランスや害虫の偏りを避けるため、作付けのローテーションを記録しておくで後々役立ちます。

●防寒・防風の工夫

冬の野菜がダメージを受ける大きな原因は、低温そのものより乾燥した冷たい風です。不織布、ワラ、ビニールトンネルなどを状況に応じて組み合わせ、保温と防風を同時に行ないましょう。夜間だけカバーする簡易的な方法でも効果は高く、小さな工夫で冬越しの成功率が大きく上がります。

農業のために 漁業のために 製造業のために
JA共済の地域貢献活動

©2017 JA-KYOSAI

ふれあい感謝祭

組合員・地域のみなさまへ

日頃のご愛顧を込めて農協会館最後の開催

JA呉地域では11月22日、農協会館でふれあい感謝祭を開催しました。

農協会館解体のため、現在の建物では最後のふれあい感謝祭となりました。

6Fステージでは錦城神楽団の神楽をはじめ様々なイベントが催されました。

また各階では管内JAの特産品や農産物の詰め放題、JA女性部によるバザーや食堂、農家相談コーナーなどを設け、多くの来場者で賑わいました。

きゅうり・みかんの詰め放題



ピーナッツ詰め放題



安芸津 じゃぼんサイダー



呉警察署



JA 共済連広島



呉グリーンセンター



屋台コーナーのトルネードポテト



6階ステージイベント

錦城神楽団



チアリーディングスクール
ドリームレインボー



八雲



フレンズマーチングバンド



呉フォーク村



Kureators Lab Dance Studio Krystal



縁〜えにし〜

